

「平成30年7月豪雨」被災地における栃木県警察の活動

1 活動内容

広域緊急援助隊等による捜索・救助活動

2 活動概要

派遣日	部隊名	人数	車両	活動場所	活動内容
平成30年 7月7日 ～7月11日	広域緊急援助隊(警備部隊) 機動警察通信隊 現場広報班	20人 1人 2人	6台	広島県安芸郡 熊野町川角地 区	・行方不明者捜索 ・救助活動

3 活動状況

行方不明者捜索状況



4 派遣隊員のコメント



広域緊急援助隊小隊長
警部補（平成10年採用）

私達は、広島警察学校を拠点とし、想像を絶する災害現場で炎天下の中、捜索活動を行いました。私達が1日の活動を終え拠点に戻ると、警察学校の学生が元気よく挨拶し、捜索救助資機材の点検整備を手伝ってくれました。彼らの中には家族が被災した者もいたと聞いてます。

彼らの一生懸命作業する姿は、被災された方々から「明日こそ必ず見つけてください」と激励されている様に思えて、私の活動を支える力となっていました。



広域緊急援助隊分隊長
巡査部長（平成19年採用）

現場は、山からの土砂や木、人の何倍もある岩で埋め尽くされ、多くの家屋が倒壊していました。

捜索現場は、土砂に足を取られて思うように身動きが取れず、さらに猛暑のため、飲んだ水分もすぐに汗で出てしまい、自分や隊員が熱中症にならないよう気を配りました。過酷な環境でしたが、「一人でも多くの人を救いたい。」との一心で活動しました。

特別派遣での経験や教訓を今後に活かしたいと思います。



広域緊急援助隊隊員
巡査長（平成27年採用）

私達が行方不明者の捜索に従事した現場は、山肌が露出して、岩や大木が住宅街一帯を飲み込んでいる異様な光景でした。

現場周辺は、家屋が傾き、家財道具が屋外に山積みになっており、土砂崩れがいつ再発するか分からない状況下での活動となりました。

しかし、現場にいた全員が、行方不明者を発見したいという一心で活動に当たりました。今後、いつ起こるか分からない災害に向け、日々の訓練に精進していきたいと思います。



現場広報班
警部補（平成3年採用）

私は、今回現場広報班として災害派遣に従事しました。現場は、多数の報道関係者が集まり、現場にいる全員が二次災害の被害に遭う恐れがありました。

報道関係者は、悲惨な被害状況を多くの人に伝えるという使命感を持って現場での取材活動に臨んでいるのも理解できます。

だからこそ、調整役として、捜索活動や被災者に寄り添い更に、報道関係者の安全確保を図りながら広報活動を行うためにも、警察の現場広報班が必要だと強く感じました。